

平成29年度町政懇談会（御明神公民館）会議録

- <実施日> 平成29年7月3日（月） 午後6時30分～午後8時00分
<場所> 御明神公民館 集会室
<出席者> 谷町長、米澤副町長、吉川教育長
米澤康成企画監、築場徳光企画監、若林武文企画監、高橋賢秀企画監
古川端琴也企画監
志田透長寿支援課課長、大久保浩和総合福祉課長、
柳屋るり子健康推進課長
司会：吉田留美子総務課長
<参加者数> 17人

（懇談会の次第と要旨は以下のとおり）

- 1) 開 会 総務課長が開会を告げる
 - 2) 出席者紹介及び事務連絡
総務課長より谷町長、米澤副町長、吉川教育長、出席企画監、
関係課長、事務局職員を紹介。
総務課長より日程等を説明。
 - 3) 町長挨拶、概要説明
（下記記載のとおり）
 - 4) 懇 談 （下記記載のとおり）
 - 5) 所 感 （下記記載のとおり）
 - 6) 閉 会 総務課長が閉会を告げた。
- 開会 （吉田総務課長）

《町長挨拶、概要説明》

ちょっと雨で条件が良くない時間帯ですが ご臨席を賜りありがとうございます
今年の調整懇談会は4地区で行います。

さまざまな意見をうかがって町政に反映させていきたいと思えます。

今、国全体で 人口減少という時代に向かっています。

増田レポートでは経済が回らないといっている。少子高齢化を、国を挙げて食い止めてい
かなきゃないということをやっている

今日は、雫石町らしい地域包括それぞれが支えあいながらやっていきたいと思えます。

(以下資料による事業説明)

・包括ケアシステムの構築について

《懇談》

町民：町有地14ヘクタールの活用モデルプロジェクトについて、プロジェクトについては昨年の5月の町政懇談会で構想事業の案を説明して頂いたが

事業計画が、議会の様子を拝見しても二転三転四転五転している、議会の方からももう少し町民に対して詳しい説明をしてほしいということでしたが、その後一向に説明が無い、広報で説明したので次は説明する気はないとの発表もある

その不明な点にちょっと確認させてほしい。

町長は、インターネット検索はしますか？

町長：しません

町民：開発許可申請は9月までに移住者の人数を決めて、今年度中に10人から20人開発申請を出すという事でしたが、そうすると今は、工事は一切していないという事ですか。

町長：施設関係の工事はしていません

町民：インフラは？

町長：インフラ関係は29年度が最終ですので進めています。

町民：広報では説明が無い、5月に説明された14ヘクタール全部活用するという事だったが、2月議会では使用面積は1/10に縮小されている

町長：10分の1では無いです。どこの情報ですか。

町民：2月の議会で坂下議員が質問していた。

町長：まずは、14ヘクタールの事業計画については、議会にも何回か説明しています。

その中で、福祉計画でサービス付き高齢者住宅等については、移住する関係者が希望する施設展開をしたいという、事業者の希望もあります。

いま、そういう希望者が10人12人と出て来ていますので、どういう居住性のものを要望されるのかというのもあり、固定されたもので開発していくわけではありません。

町民：10分の1で良いんですね

町長：10分の1では無いです。約45%位だと思います。手元に資料が無いのであとで

町民：サービス付き高齢者住宅は、町民は入れるのですか

町長：ご希望の方がいれば、可能の状況にしたいと思っています。

町民：町民に対して募集要項とか一切、全く報告されていませんよね

町長：これからいろいろ組み立てていきます。今は首都圏を中心にして移住センターを設けて募集しています。

目的は内閣府による計画に合致してやっています。

町民：町民は入れますか、アピールしていませんよね

企画財政課長：サービス付き高齢者住宅の募集については、まちづくり会社の方で、今パンフレットができたところです。町民の方にも広報の、今月号で記事が掲載されることです。

町民：それがなぜ2月号3月号で説明が無かったのですか

企画財政課長：今決まったものです。

町民：NHKの3月16日のクローズアップ現代で 老人ホームが空いている、急増する地方の高齢者向け住宅の破たん というのがあった。

その理由が、介護スタッフの雇用が困難、利用者が少ないというものであった。制度変更による特養の場合、要介護2以上でないと入れないというもの。

サービス付き高齢者住宅についても、町民は入れるのかと思っている人がいるが詳しく説明されてきていない、資料が出来たのであれば説明をお願いしたい。

サービス付き高齢者住宅は国交省が進めている物で、厚労省の主管ではない。高齢者の住宅を建てればいいと言うもの、介護スタッフの取り合いで住宅を建てたはいいがスタッフが不足しているから、高齢者住宅も多く、高齢者が選ぶため、入る人がいないので経営破たんしているという放送でした。

最近、つなぎ温泉病院やは一とぼーとなど色んな施設の介護士やヘルパーの募集が毎日のように入ってきているが雫石はそういうところは、どうなっているのか

14ヘクタールに関して、去年の5月の説明でここを町の福祉拠点と各集落のサテライトと連携し包括ケアシステムのサテライト機能を持つとあった

2月の広報に全く載っていない

今回の包括ケアシステムの一翼を担うデイサービスとか町民の為の福祉とか子育て世代の住宅も建てるとかだったが、都会向けのサービス付き住宅しか載っていないのはなぜか

サテライト機能が抜けたのは何でか。

企画財政課長：地域の拠点についての考え方は変わっていません。ただデイサービス事業

については町の経営では無く、事業者経営になるので、事業所の中でデイサービス機能は、今ある現存でデイサービスを利用する様に考えているようです。

交流拠点については、地域の方もそこに住む人も活用できるように考えています。

町民：交流施設ですが、プロポーザルをやったようですが、施設には産直やカフェなどがあるような説明でしたが、資料を見ると、全く入っていない。

将来の町の為のプロポーザルに見えない。

企画財政課長：交流スペースとかはプロポーザルに入っています。

町民：産直、体育行事が出来る施設、町民の為の施設が抜けている

企画財政課長：抜けていません。

町民：町民が体育行事をする施設、無いんですよね。地域のためのスペースが載っていない

企画財政課長：スポーツは出来ないが、町民の方が利用できるような施設と言う事で、事業費の中で何が出来るかということで、レストランや図書館を盛り込んでいます。

町民：プロポーザルの中にギャラリースペースとか入ってません。2月10日の広報で施設概要に全く入っていない

企画財政課長：そこには入っていないけども 補足の資料があるのでそちらに入ってます。

町民：サービス付き高齢者住宅の管理施設にしか見えない

企画財政課長：基本はそうです。管理施設ですが、併せて住民の方も利用できるように、他の機能も入っています。

町民：事業者のイニシャルコストを抑えるためですよね、町が補助金をもらって管理棟を建ててやるという事ですよね。

町長：それは、一方的にそう考えるのもいいかもしれませんが、そうではなく

町民：町民のための健康の部分とか、ケアシステムの部分が全く片手落ちで、CCRCの部分だけ強調されてくるので、もう少し町民に対して説明してほしい、広報だけではわからないので、もっと説明してほしい。

町長：わかりました。ご意見として拝聴致します。

町民：ヘルパーの募集とかは、町の施設では募集はしていないのですか。

長寿支援課長：各事業所の募集状況の全ては把握していませんが、スタッフとの普段の話

の中で聞いている中では、苦勞していると聞いています。

事業所では、待遇の改善ということで、給料の見直しなど努力している所もあります。

事業所の協力をいただきながら意見交換会等をやっています。地域包括ケアシステムの行動計画なども作っています。

町民：必要性は町長の話で分かるが、雫石町としてどういうシステムを作ろうとしているのか、その辺の説明が欲しい

町長：今、これを進めるにあたっては、担当3課が内容を固めている状態です。

総合福祉課長：地域包括ケアシステムについてはこれから、町政懇談会での意見を頂き、町民からアンケート、ニーズ調査などをして進めていく予定です。

まずは、大きな行動計画を一つ作り、4つの重点項目を掲げています。

一つ目は、他職種の連携強化をしていくことで、先週に開催したのですが医療関係者、福祉関係者との顔の見える関係を構築して、チーム雫石的な組織をつくって行こうとしています。

二つ目は、情報の共有のネットワーク化で、どういう情報共有の方法があるかということで、意見を頂きながら構築していこうとしています。

三つ目は、総合相談窓口ということで、一人の相談者に対して包括的に関わっていきましょうということで、一人の相談者に対し、子育てと介護など、ダブルケアなどの相談をされる方もいます。それ以上にトリプルケアの方もいます。一つの窓口でやっっていこうとしています

そういった人たちを、総合的にマネジメントできるようにしていこうとしています。

最後に、地域における拠点づくりということで、高齢者や障害者に対し地域でできることについては、地域でやっっていこうということです。

この四つを重点項目に掲げながら、行動計画を立てていこうとしています。

町民：いずれこれからですね

町長：そうです

町民：14ヘクタールのプロジェクトについて、高齢者を首都圏から呼んでくるのですが、高齢者コミュニティの問題は高齢者団地とか限界集落とか高齢者だけのコミュニティは問題があると思う、近くに若い人たちのコミュニティも呼んでこない危険だと思う。

包括ケアシステムを構築するのであれば、呼んできた人たちも若者たちでバックアップしてやらないと危険だと思う。

周りの地域の人たちと交流するという事もあるが 若い人たちも一緒に呼んで

てやった方がいいと思う。

町長：その通りです。高齢者を対象にして、高齢者に移住してもらうのではなくて、健康なうちから入っていただいて、段階的にそういう状況になった時にサービスをする、という目的でやっています。

今、ご家族で移住したい方、30代40代50代でも希望者が出て来ています。そういう方のニーズに合わせて、施設をつくって行くという手法を取っています。一気に高齢者だけのコミュニティにすることは想定していません。

町民：高齢者向け住宅建設は、若者向けに変更もできるのですか

町長：当然です。例えば40代の方も20年30年後までの年月に合わせてどうするかも検討課題です。できるだけ若い人も入ってほしい

町民：その若者移住の部分も広報で説明してほしいです。高齢者向け住宅しか書いていないのでわからない。

町長：分かりました。

町民：これを見ると高齢者だけが対象に見えるが、人口減少の発端は結婚して子供を作るという前提が無いと人口が増えないと思うので、その部分を書いてもいいと思う、若者へのアピールが足りないと思う。

町長：今回の地域包括ケアのテーマは高齢化現象への対策が大きなテーマです。

町民：若者の結婚を推進するような対策はなにをやっていますか

町長：雫石町のまちひとしごと創生総合戦略で今後5年について計画があるが、安心して結婚出産子育てができるまちづくりが、基本計画の3番目に掲げている。

その出生数の数値目標で基準値が93人から目標値 平成31年までに130人 にしている。

雫石町は100人をきる事がなかったが、最近切るようになったので、100人以上にしたいです。

基本の目標「幼少期より家族の素晴らしさを芽生えさせ、結婚を望んでいる独身者に対し出会いの機会を作り結婚を支援します。」として、結婚政策の充実、若年層からの情操教育などいろんな施策は別途やっている。

雫石町は結婚年齢が少しずつ上がってきている。40過ぎの独身者をなんとかしないとと思っている。昔のような仲人制度も薄らいでいる。

働き方改革などもあり、余暇時間で交流できる時間を設けてもらいたい。

町民：企業にお願いして、結婚適齢期の人がこのくらいいるとか、データを集めてその中

から選ぶようなシステムは出来ないのか。

町としてそういう取り組みはないか

町長：盛岡セイコーなどの企業には、話題提供はしているが、昔と状況は変わってきている。

町民：岩泉、久慈の豪雨で高齢者施設に濁流が来たが雫石町の場合、高齢者施設の危険箇所など点検はしていないのか

長寿支援課長：岩手県が中心となってそういう調査をしている。町は小規模施設については、指定指導権限は町に移管しているので、その中の運営会議とかでは不測の事態に備えて、計画策定や訓練等、互いに連絡しあいやっている。

町民：雫石町にはないということですか

総合福祉課長：未確認ですが、無いという認識です。

国交省から、岩手県と関西の方の県でモデル地区として避難計画を作ろうとしている。

岩手では岩泉がモデルとなっている、町の水害の危険箇所は無いと認識しているが、鶯宿のショートステイが懸念されている。

町民：何年か前雫石町でも大水害があったが、雨量は何ミリくらいでしたか。

上下水道課長：80mm/h位だったと記憶しています

町民：雨量の観測点は何か所位ありますか

上下水道課長：町は持っていないが、国・県の施設が5、6か所くらいあったと思います。

町民：警報が出るのは 何mm位

上下水道課長：気象庁からの情報により、防災課の方で役場の中の体制を取っている。

町長：北上川水系の防災体制の会議で、要望もして来ました。水量計を雫石川に設置してほしいと。

4年前の水害の時は、御所ダムの最大水位まであと少しとなった、ぎりぎり持ったので下の盛岡の河川には支障なかった。

今は、局地的に豪雨が降りますので、葛根田はそんなでも無かったが、こちらの公民館にこんなに水が来るとは想定出来なかった。

町民：赤沢川が水害前より護岸ブロック3つ分川底が上がっている、前よりも危険性は増している、落差工もほとんど差がなくなっている、どうにかならないか

町長：そういう状況はあちこちありますが、なかなか手つかずの状態です。

御所ダムの土砂等も堆積しているので、やってもらうよう要望している。

町民：前までは竜河だったが、いつの間にか雫石川になった、何でだ。

上下水道課長：後で調べます。

町民：清掃でも、いつの間にか、竜川河川清掃から雫石川河川清掃になった

町民：黒沢川では、土砂上げは結構申請していかないと対応してくれない、予算の関係で
一気にはできない、今年は黒沢の尻の方は予算がついて執行するだけ。

町民：これからの事業とは思いますが、地域包括ケアシステムの意味が分からない。

子供たちに聞かれても答えられない、簡単に言えば「こうだよ」というのを教えてほしい。

長寿支援課長：地域包括ケアシステムとは、周りの方々の支援を必要としている人たちに、
町の医療や介護などの資源を活用して、地域での生活を支える仕組みです。

お年寄りなどを周りの方々が包んであげる、関係者同士の連携をもっといいものにするためのものです。

副町長：地域包括ケアシステムとは、困った人がいたら、寄ってたかって困った人を助けて
あげること、と思っています。

ケアシステムと固まったものはないが、雫石では雫石の施設や人を活用し困った人を見守り助けるもの。

町民：高齢者の定義づけを変更するとか言っていましたが、雫石ではすすめていますか

総合福祉課長：高齢者人口や高齢者率は、通常は65歳以上ですが、議会等では60歳以上
で老人とか、言い方はシルバーとかという話もありますが、一般的には65歳となっています。

町民：老人クラブの老は朗らかと書いた方が良いと思っている。

町民：地区で、一人体調不良で施設に入っているが、それに関する書類が来た時、各課に
行かないと、いろいろ手続きが進まない、何かできないか。

今年も共済の書類がない人の分も来た。

町民課長：交通災害共済の関係ですが、住居表示がある方の分を作っているが、行政区の
方から、細かい情報を集めていない為、今年も作ってしまったが、出来るだけ情報を
聴いて防災課にあげたいと思います。

町民：小学校の統合について、他の市町村に比べると町や教育委員会の進め方が弱かったと思う、大幅な遅れの中でも進んでいるが、統合が遅れた分、子育て世代の支援、負担軽減など見えるようにやってもらえるとありがたい。

P T Aの会などでも、御明神の中にも同じことを長々と話す人もいる、そんなのを聴くと来たくなくなる人もいると思う、一人3分とか5分にしてもらうなど、あとなるべく子育てをしている人が来ていただける仕掛けなどをやってもらいたいのかと思う。

総務課長：参考にさせていただきます。

《所管》

町長：大変ありがとうございました。地域包括ケアシステムという行政語みたいなことでテーマを設けたこともご無礼だとは思いますが、本当に困っている人をみんなでどういう風に支えていけるのか、町らしいものを構築していかなければならないと思っていますので一辺には行きませんが、ご相談していきながら作りあげて、町民の方に説明したいと思っています。

今日は、ありがとうございます。